

インドネシア・アンボン渡航情報

お客様各位

この地域を目的地とする旅行に関しまして、危険情報の説明と当社の判断するところの安全確保をご案内いたします。

この書面は、当社が海外渡航情報にある危険情報の内容等を十分踏まえたうえで、当社自らの判断により、必要に応じた危険回避の処置を取る等、安全確保に関し適切な対応を講じたうえで、ツアー催行を決定する旨を説明しております。

外務省発令の「海外危険情報」(2009年8月25日現在)

●マルク州：「渡航の是非を検討してください。」(継続)

- ・2004年4月の分離独立派グループとインドネシア支持派住民の放火や銃撃を伴った衝突事件以降、大規模な事件等の発生はなく、治安状況は回復を見せていました。
- ・2007年3月にはヨス・スダルソ港、4月には市内の交通ターミナル、5月にはイスラム寺院でそれぞれ爆弾事件が発生しており、治安当局は引続き高いレベルの警戒態勢を維持しています。
- ・アンボン島以外のマルク州においては、分離独立派とインドネシア支持派の各支持者間の衝突は全体として落ち着きを見せていましたが、2005年に武装集団によるブル島行き客船への発砲事件や機動隊詰所襲撃事件等が発生しています。
- ・2008年12月には、マルク州中部のマソヒでキリスト教徒とイスラム教徒との間で住民衝突が発生しています。

つきましては、マルク州・アンボン島へ渡航を予定されている方は、常に最新の情報の入手に努め、渡航の是非を含め自らの安全につき真剣に検討し、渡航される場合には十分な安全対策を講じることをお勧めいたします。

当社の「安全確保」(2009年11月1日現在)

皆様のアンボンでの移動内容を現地目見により説明いたします。アンボン空港到着後、現地提携会社のマルクダイバーズが手配したドライバーと合流し、空港内にいる地元警察官にパスポートのコピーを渡してもらいます。その後、ドライバーと共に専用車にて、全員でリゾートまで移動となります。空港からリゾートまでは直行になっており特別な事情が無い限りマーケットなどには立ち寄ることは致しません。帰路も同様にドライバーが空港にてチェックインのアシストをし、ゲートに入るまで見届けてくれます。今回のツアー目的がダイビングである事。市街地は往路・復路ともに通過するのみである事。ご利用空港では搭乗する、しないに限らず空港施設内に入る方の荷物はすべて入り口でX線を通し、人も金属探知機を通過して検査をおこなうなど、徹底した安全対策がとられている事。

万が一の場合には、海軍、港湾局へ常時連絡が取れる状態になっており、またマルクダイバーズの本社バリ オフィスとも常時、連絡を取れる状況にあります。

上記の内容から当社といたしましては、安全確保について適切な対応が講じていると判断し、募集型企画旅行を催行いたします。

(株) ワールドツアープランナーズ

観光庁長官登録旅行業 第1604号

(社) 日本旅行業協会 正会員

〒105-0013東京都港区浜松町2-2-3磯山ビル5階

TEL:03-5425-7711 FAX:03-5425-7713

総合旅行業務取扱管理者 遠藤 光衛

インドネシアに対する渡航情報（危険情報）の発出

- 中部スラウェシ州のポソ県及びパル市
：「渡航の延期をお勧めします。」（継続）
- ナングル・アチェ・ダルサラム州（旧アチェ特別州）、マルク州、北マルク州、パプア州、西パプア州、中部スラウェシ州（ポソ県及びパル市を除く）、東ヌサトゥンガラ州の西ティモール地区
：「渡航の是非を検討してください。」（継続）
- 首都ジャカルタ及びバリ島を始めとする全地域（上記の地域を除く）
：「十分注意してください。」（継続）

